

農村復興と 女性の自立支援スタート

アフガニスタン

中村哲医師に聞く



アフガニスタン東部・ワマクリニックで診察する中村
医師 (パシャワール会ホームページから)

3月20日、アフガニスタン国内や隣国パキスタンで医療支援を行っているNGO、パシャワール会の中村哲医師に、アフガン復興の現実を聞く会が衆議院議員会館で開かれた。独特の語り口で中村医師は、アフガニスタンは史上最悪の危機の中にある、と話した。

パシャワール会へは食糧支援「いのちの基金」へ7億1800万円が寄せられた。それを使って農村復興と女性の自立支援をするためのプロジェクトをはじめた。

アフガニスタン政府は、タリバン時代の政府より数百倍悪くなっている。「市場に野菜が」「テレビも市場に」と報道されるが、野菜もテレビも前からあった。アフガンに自由が来たというのがそれは、売春、餓死、暴行、略奪の自由である。

農村は換金作物として手っ取り早い麻薬のケシ栽培に走っている。カブールには、夫を失った「未亡人」がたぐさんやってくる、物乞いをしている。その脇には、

欧米や日本のNGOや国連機関の豪華な事務所が

並んでいる。

パシャワール会では、女性の自立支援のために女性の裁縫工場を作り、ミシンを使って衣類を生産し日当を給付する事業を始めた。

飲料水確保の事業も690カ所で作業が進行中である。そして農業チームを発足させていく。アフガンはお茶の消費国だが生産はしていないので、お茶の作付けなどをしていく農村の支援をしていく。

今必要なことは食っていくこと。だから、土木事業、日当が出る公共事業を行うべきである。

教育支援などはあとでもよい。みなさんのアフガニスタンへの関心の継続をお願いする。

(まとめ・赤石千衣子)